

学校名：あべの翔学高等学校

学年：2年

名前：吉田 真宝

題名：支え合う税と私たち

「外国は凄く素敵だけど、住むなら絶対日本だね」

コロナ明け、久しぶりの海外旅行帰りに母とこんな話になった。旅行好きな両親とはよく海外に行くことがあるが、外国を訪れる度に日本の生活水準の高さや快適さを実感する。

ふと、日本とのギャップを特に感じた国を思い出した。発展途上国と言われているカンボジアだ。以前、父の仕事に同行してカンボジアを訪れた。その際、カンボジアで長らく続いた内戦や独裁政権の影響が今でも根強く残っていることを聞いた。現地の学校を訪れた際、特に印象深かったのは、勉強したいと願う子供達の人数に比べ、適切な教育環境が極端に不足している現実だった。過去の虐殺や破壊により、教師や学校も不足していて、教材も満足とはいえない。

しかし、日本では無償での教育の権利が国民全員に保証されている。日本は綺麗な校舎と教材、各教科専門の教師、無料の図書館などが当たり前揃っている。日本では「普通」であるところが外国も同じとは限らない。義務教育だけでなく、高レベルの公衆衛生や整備された交通機関、綺麗な公共施設などの存在も私たちにとっては「当たり前」である。

日本が、これらを充実させられている理由を疑問に思い調べた。そして、それを可能にしているのが「税金」という存在だということが分かった。人々が納めた税金を政府が適切に活用することで、私たちはこれらが「当たり前」の生活ができている。考えてみれば凄く恵まれている事だ。カンボジアから帰国後、今まで意識もしなかった様々な税金による恩恵が目につくようになった。

以前父と税金についての話題になった際、「パパは所得税、住民税、固定資産税など色々な種類の納税をしているよ」と言われた。対して私が、「そんなに納税しないといけないの？」と言うと父は、納税金額は少なくないけれど、補助金や日々の安全を守ってくれる警察や消防などが税金で支えられていることを指摘し、「税金とは支え合う関係性だ」と続けた。その言葉通り、納税によって他人を支える一方で、自分自身も誰かの納税に支えられていると感じ、納得できた。

税金はみんなが暮らしやすい社会を作る為に必要不可欠なものであり、より良い社会やサービスとして還元されると私は考えている。納税を負担に感じる人も多いかもしれないが、納税をネガティブに捉えすぎず、税金の重要性と役割を深く理解し、必要だと納得してその義務を果たせればと思う。

今後も、私たちが納税の義務を果たすことによって多くの人々が安心して生活する「当たり前」を守ることができるだろう。私はこれからも税金から受ける恩恵に感謝して毎日を過ごしたい。そして社会に出た時、その恩恵を守り続けられる人を目指したい。